

79 · 10 月

国字研ニュース

46
1.

国字問題研究会

発行人

内山みち子
見城慶和

国字研ニュース発行にあたって

本会の目的は、日本語表記の諸問題について、発展的な研究をすることにあります。

77年4月創立、以後大体、毎月一回研究会を開いてきました。78年に「新漢字表試案に反対」の声明を、79年には、中間答申の「常用漢字表案」を検討した結果の要望書を、文部大臣・文化庁長官・国語審議会会長、その他に提出もしました。今、ニュース第一号を発行いたします。

月例研究会発表の要約二つをつぎに。

常用漢字批判の基礎 II 大久保忠利
常用漢字表案への批判 II 内山みち子

79 · 7 · 21 常用漢字批判の基礎

大久保忠利

(要約 見城慶和)

我々、常用漢字表案の漢字野放しに反対する側は、まだミニコミである。「量は質を決する」という法則からも、また反対勢力は弱い。しかし、ミニコミがマスコミを覆すことが徐々に展望として開けつつある。

現在マスコミを通して、一般的傾向としては、漢字野放し論者の感化的側面で包みこまれていて、理性的判断が放げられている。

九九六字のツメ込み教育を押しつけてきた歴史——昭和33年指導要領から拘束性をもたせ、義務教育九ヶ年のものを小学校六年で881

字にすりかえた。42年で115字ふやし、風間章典協力委員に「協力」させ「教育漢字」として増やしたことを合理化させるやり方で現場をしめつけている。来年度からは、国語の時数を削減し、しかも漢字996字を小学六年までにツメ込む無学をおしつけている。

しかし、闘いはミニからマスへ転化しつつある。日教組はこれまでただの一度も国字問題で発表したことが無かったが、六月二十二日に常用漢字案に反対する見解書と要望書を発表した。この歴史的意義は大きい。

ところで、日本に於ける漢字の使用の複雑さは話の他である。中国、韓国のように漢字を使う国でも、一字一音なのに、日本では最

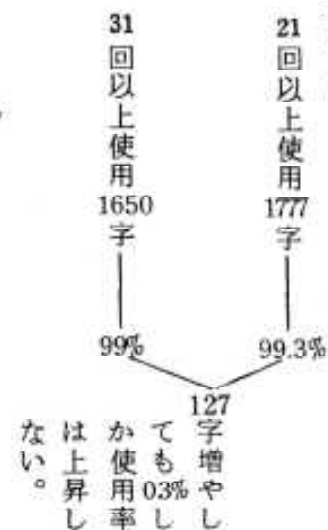
低音訓の二音があり、少なくとも五〜六音もっている。同音異義語の多いことは「カナノヒカリ」でタマキヒデヒコ氏らが指摘している通りである。

常用漢字表は「案」であることが大切である。福島会長がただ一人首を横にふったので決定が中間答申になった。歴史の中の一人の重さというものをここに見る。

私がこの漢字問題に首をつっこむようになったのは、毎日新聞に載った新井達夫（第11・12期委員）の勇気ある発言「新漢字表の試案はこれでよかったのか」（一九七七・一・二四）（一九七七・一・二五）——「私は二期四年間、国語審議会の委員であった間、総会で採決という場面は一度も見なかった……」という事実の告発に発憤しこの漢字問題に着手した。新井氏からはその後便りももらい、委員在任中、新井氏の発言の邪魔をした佐々木発言のことなども知らせてもらった。

今回、私は、国立国語研究所「現代新聞の漢字」（秀英出版）を資料として「100万視覚図」を作成した。

表から ex



1982字 ↓ 99.6% → 205字増で0.3%増にしかならない。
愚。

この「100万視覚図」からも、漢字を増やすことのマイナスを強く主張する根拠が出てくる。

私は、小学校責任必修、六〇〇字 ↓ これは六年終了時に50%の児童が881字中367字書けない調査結果に立脚している。

中学校で1000字 — 高校で1500字を考えている。その具体的案を、次回の九月に提案したい。

79・7・21常用漢字表案への批判

内山みち子要約

1、疑惑に満ちた常用漢字表案の「目安」

これは、最少限度一九二六字の漢字は使えという努力目標であって、それ以上の漢字もなるべく使うようにと、官民全部にアピールしているようだ。内閣訓令にもしないのだから、官庁を拘束するものでさえない。何人のためのものか、全く不明。（以下省略）

2、漢字は儒教の精神を伝えた。

漢字は3世紀末に論語や千字文とともに日本に伝来したが、漢文の学習は、当時は少数の権力者、支配階級のものであった。やがて一部の民衆にも学ばれたが、四書五経が最高の教養と道徳のバイブル的存在であった。その精神は、忠義と孝行であり、自分の身分をわきまえよという、支配者にとっては有利な教えであった。およそ漢字漢文を学ぶ者は、四書五経の素読が何よりも大切であり、そこにこめられた儒教の精神が、漢字とともにたっぷりと日本人の心にスジガネとして入りこんでしまったのだ。

この儒教の心は、実に34年前の敗戦のときまで、教育勅語となり、軍人勅諭となって、日本人の道徳の最高基準となっていた。漢字の中に流れる思想は、支配階級のものであり、そこに仏教思想などもとり入れて、内省による厳格な自己統御の重視・道徳への強力な呼びかけによる社会秩序の確立への期待があった。漢字崇拜論者の中には意識するか否かを問わず、儒教精神へのあこがれがあるようた。それが志向するところは、天皇を頂点とする忠君愛国の天皇制国家である。折しも今、日本では元号法制化が政治的に決定した。漢字無制限使用をうたう「常用漢字表案」の発表は、元号法制化と、根を一にするものである、(以下略)

3、激化する漢字公害

漢字は、読み書きの学習に時間がかかりすぎて、学問や文化の進歩をさまたげる。漢字は生活の能率化と文化水準向上をさまたげる。

漢字の造語力は同音異語を増して困る。
漢字増加は大衆を文字文化から遠ざける。
漢字は、学校教育の中で暗記とツメコミを

重視させがちになり、児童・生徒の創造的意欲をさまたげる。

4、世界各国表記法の潮流に逆行するもの(省略)

国字問題研究会の歩み

- 77・3月 「内言と漢字」(言語心理) 大久保忠利
- 〃・5月 「新漢字表試案への意見」(話し教室) 内山みち子ほか9名
- 〃・9月 「新漢字表試案」トヨタヤンオ
- 〃・〃 「漢字の未来について」 内山みち子
- 〃・10月 「国語政策の歴史」 田中 積
- 〃・〃 「漢字の言語心理」 大倉孔一
- 〃・11月 「漢字について」 渡辺 武
- 78・1月 「コンピューターとカナモジ」 武藤公夫
- 〃・4月 「新漢字表試案反対・当用漢字を守ろう」 内山みち子
- 〃・6月 「国語表記法を後退させるな」 内山みち子

- 〃・7月 「当用漢字別表」 大久保忠利
- 〃・〃月 「婦人と当用漢字」を調査して 内山みち子
- 〃・〃 「現代表記の成立と戦後史」武部 論文より 渡辺 武
- 〃・9月 「小学校600字大久保私案について」 齊藤郁子
- 〃・10月 「読み書きのやさしさ」 内山みち子
- 〃・11月 「当用漢字私見」 杉村正一郎
- 〃・12月 「計量記号論」 佐伯 俊
- 79・1月 「ローマ字はどうやくにたっか」 佐伯功介
- 〃・2月 「漢字指導にむりするな」 小林喜三郎
- 〃・3月 「漢字ツメコミ教育は教育の破壊」 大久保忠利
- 〃・4月 「カナで考える」アマリヨシハル
- 〃・5月 「漢字はなぜ少いほうがよいか」 内山みち子
- 〃・6月 「国語審議会委員による常用漢字の説明」を聞く」本会有志7人

<p>〃・7月 「常用漢字批判の基礎」(言語心理部会) 大久保忠利</p> <p>〃・〃 「常用漢字表への私の批判」 内山みち子</p> <p>〃・9月 「現代漢字一五〇〇字案」 大久保忠利</p> <p>〃・10月 「現代漢字」 大久保忠利</p> <p>〃・〃 「日常漢字内山私家」内山みち子</p> <p>〃・11月 「常用漢字ア・カ行の検討」 有志全員</p> <p>(予定)</p>	<p>〃 (日本コトバの会研究部長)</p> <p>〃 (日本コトバの会評議員) 黒滝チカラ</p> <p>大倉 孔一</p>
<p>本会役員(79・10月現在)</p> <p>委員長 (日本コトバの会副委員長) 内山みち子</p> <p>副委員長 (東京都荒川第九中学校教師) 見城 豊和</p> <p>〃 (日本コトバの会副委員長) 渡辺 武</p> <p>運営委員 (東京学芸大学教授)井上 尚美</p> <p>〃 (日本コトバの会書記長) 田中 積</p> <p>研究参与 (日本コトバの会委員長) 大久保忠利</p>	<p>〃 (日本コトバの会副委員長) 黒滝チカラ</p> <p>大倉 孔一</p> <p>〃 (日本コトバの会評議員) 黒滝チカラ</p> <p>国字問題研究会へ入会のおすすめ</p> <p>日本の国語国字政策は、戦後の「当用漢字表」と「現代かなづかい」の制定から、大きく後退しつつあります。このときにあたり、真に国民の国字は、どうあるべきかを真剣に検討しなければならぬと思います。</p> <p>本会と同じように、日本の国字の将来を案じて、発展的な声明書・要望書・意見書などを発表しておられる左の諸団体に、深い敬意を表しつつ、いっそうのご活動をおねがい申し上げます。(諸団体名・敬称略)</p> <p>カナモジカイ・児童言語研究会第15回東京アカデミー・児童言語研究会・日本コトバの会・科学技術の正書法を考える会・日本教職員組合。</p> <p>なお、今からでも、国字問題に関する貴重な研究や活動に、一人でも多くのかたに参加なさっていただきたく、心からねがっております。(国字問題研究会入会五〇〇円、会費一年分一、〇〇〇円)</p> <p>あとがき——完全なものと期して延引するよりも、とりあえず発行することになりました。</p> <p>不行きとどきのことはお許しください。(内山)</p> <p>大久保忠利</p> <p>「一億人の国語国字問題」</p> <p>(三省堂 900円・120円)</p> <p>国語国字の逆コースが始まったいま、この書は明治以来の国字問題の歴史を知る上にも、戦後三十余年の国語審議会の功罪を明らかにするためにも、ぜひ、読んでほしい本です。全国の書店でとりよせてくれます。お急ぎのかたは、代金送料をそえてつ発行所か、日本コトバの会にお申しこみください。</p>

[注]「本会役員」「会費」「発行所」などは、刊行当時のものです。